

## 第二回 関西大学・台湾大学大学院生共同発表会

2016.04.23

6



2016年4月23日於日本關西大學兒島惟謙館召開「第二屆關西大學・臺灣大學研究生共同發表會」，關西大學中谷伸生教授於開幕式致詞表示：「今年已是第二次召開本發表會，相信往後能日漸步上軌道。現今我們不應侷限在自己的國家，應宏觀全球，並以全新視野來追求學問，我想這是本發表會最具意義之處」。



▲中谷伸生教授致詞

本次發表會先由范淑文教授（臺灣大學）、松浦章（關西大學）、林立萍教授（臺灣大學）、中谷伸生教授（關西大學）四位教授進行專題演講，而後舉行四場的研究生論文發表會。發表會主題以日本文化與歷史為主，發表時提問與討論十分踴躍，每位發表者都從不同領域的教授與學生身上得到許多意見，收穫滿載。論文發表結束後，由臺灣大學辻本雅史教授、林立萍教授、曹景惠副教授進行個別評論。最後由臺灣大學日本研究中心徐興慶主任閉幕致詞：「研究過程

2016年4月23日、関西大学との大学院生共同発表会が、関西大学兒島惟謙館において開催された。開会の辞では、関西大学中谷伸生教授より「この発表会は今年で2度目の開催となったが、ぜひとも軌道に乗せていきたい。今は幅広い国際交流を重視する姿勢に基づき、新しい視点から学問を問い直すことが求められている。当発表会はその点においても非常に意義があるものだ。」との挨拶があった。

本発表会は范淑文教授（台湾大学）、松浦章教授（関西大学）、林立萍教授（台湾大学）、中谷伸生教授（関西大学）の4名の教授による基調講演に始まり、その後4つのセッションに分けられて院生による論文発表が行われた。発表テーマは主に日本の文化や歴史に関わるもので、それぞれの発表に対して多くの質問やアドバイスが寄せられた。発表した院生は、異なる領域を専門とする学内外の教授陣及び院生から意見を得ることができ、大きな収穫となった。論文発表終了後、台湾大学の辻本雅史教授、林立萍教授、曹景惠副教授がそれぞれ論評を行っ

## 第二屆

## 關西大學・臺灣大學研究生共同發表會



▲范淑文教授



▲松浦章教授



▲林立萍教授



▲中谷伸生教授

中透過交流，觀摩他人的研究是深具意義的事，今後我們也會繼續致力於年輕學者之培育」。為本次研究生共同發表會劃上完美的句點。議程詳細如下。◆

た。最後に、台湾大学日本研究センター徐興慶主任から「研究の過程では、交流を通じ他の人の研究について知ることが、非常に大きな意味を持つ。今後も若手研究者の育成に尽力したい」との閉会の辞があり、本共同発表会は閉会した。プログラムの詳細は以下の通り。◆

## 第二屆 關西大學・臺灣大學研究生共同發表會 議程

## 論文發表①

發表者：林姿瑩（大阪大學文學研究科碩士班）

講題／テーマ：大岡昇平『俘虜記』における俘虜描写の意味再考

發表者：豊田郁（關西大學東亞文化研究科碩士班）

講題／テーマ：土田麦僊の花鳥画をめぐって

## 論文發表②

發表者：吳昀融（臺灣大學政治學研究所博士班）

講題／テーマ：朝貢體系：和平的創造者？

發表者：郭珮君（臺灣大學歷史學研究所 博士班）

講題／テーマ：從成尋祈雨儀式看中日佛教文化交流

發表者：村上敬（關西大學東亞文化研究科碩士班）

講題／テーマ：円山応挙の「寛政描き」とその背景



## 第二回 関西大学・台湾大学大学院生共同発表会

2016.04.23

8



◀個別評論

### 論文発表③

発表者：柯輝煌（臺灣大學藝術史研究所碩士班）

講題／テーマ：尾崎秀真與 1930 年代臺灣書壇

発表者：曾筱甯（臺灣大學音樂學研究所碩士班）

講題／テーマ：矛盾與重生—臺北中山堂（公會堂）藝文展演研究

発表者：何娟娟（關西大學東亞文化研究科碩士班）

講題／テーマ：清末湖南省引進日本版紙幣初探

発表者：島村朋恵（臺灣大學政治學研究所碩士班）

講題／テーマ：日本統治末期における台湾人の「政治上の待遇改善」政策に関する研究



### 論文発表④

発表者：趙思倩（關西大學東亞文化研究科碩士班）

講題／テーマ：1883 年アメリカにおける中国不正茶事件—アメリカ新聞を中心に—

発表者：胡安美（京都大学大学院文学研究科院生）

講題／テーマ：1920 年代の葬儀に見る「国」から「民」への思想変化

—大隈重信の「国民葬」と孫文の「国葬」と蔣渭水の「大衆葬」を例として

発表者：吳征濤（關西大學東亞文化研究科碩士班）

講題／テーマ：近代日本資料にみる杭州木炭

発表者：郭楠（關西大學東亞文化研究科碩士班）

講題／テーマ：清国窯業調査報告に見る景德鎮磁器の焼成